

St. Luke's International University Repository

紀要第20号発刊に寄せて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): Nursing College and research bulletin, Official recognitoin of St. Luke's College bulletin 作成者: 藤枝, 斌 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/284

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



紀要は、教育、研究の重要な意味を持つと同時に、又教員の重要な体験でもある事を学びました。最近の紀要を拝見し感じた事は、研究の内容、方法、特にデータの処理と分析など高度なものとなり大きな進歩を感じます。

今後も、互に知識や経験を分かち合い、困難に遭遇しても一致協力して対処出来る道を紀要を通して、若い人達に示して頂きたいと願っています。第20号紀要の発行を心からお喜び申し上げますと共に委員の皆様へ感謝しつつこの稿を結びます。

紀要第20号発刊に寄せて

東京都立医療短期大学 名誉教授 藤 枝 斌
(第7号～第11号紀要委員長)

今、聖路加看護大学紀要の表紙の右上をみると、「I. S. S. N.-0289-2863」という記号と番号が付記されています。これは国際標準逐次刊行物番号 (International Standard Serials Number) で、わが国では国立国会図書館で登録し、ユネスコを通して広く世界に知らせる公式のもです。専門分野の学会誌は勿論のこと、歴史のある大学の紀要等にもこの番号が付けられています。情報社会といわれる現在、この番号が果たす働きは、学会や大学の存在を広く世界に問うという意味で、大変大きいものがあるといえます。

「聖路加看護大学紀要」にこの番号が付記されるようになったのは、第10号 (昭和59年度) からです。私が編集に関わっていた頃、国会図書館からこの番号を割り当てるという通知を受けました。発行10号目で漸く登録できたことに少し意外な感じもしましたが、とにかく聖路加看護大学が、研究・教育の実績を通して広く世界に評価される手がかりを与えられることになったわけです。教授会で報告したことを今でもよく覚えております。一般に大学の紀要は、専門の学会誌に較べて、その普遍性、客観性という観点から、研究業績発表の場として軽視される風潮がないわけではありませんが、「看護」を「大学」で研究・教育しようという聖路加看護大学の理念からみて、この番号割り当ては大きな意義を持っていたといえます。とくに当時は、大学院研究課程の開設を計画していた時期でしたので、それは一層大きい意味を持つものでした。

現在わが国では、看護大学を設立しようという機運があらこちらで高まっています。看護婦養成所から出発したわが国の看護教育の歴史の中で、「研究」を媒介として「看護教育」をする看護大学は、まず第一に大学の理念の確立と研究方法の開発が大切だと思います。専修学校 (いわゆる専門学校) とは違った教育方法による看護教育は、まさにこれからだと思います。看護についての研究方法を開発し、それを発表する場として大学の紀要は専門学会誌に劣らず大切な存在だと思います。さらに付け加えるならば、今、大学の個性化ということが問われています。大学がその存在意義を個性ある研究・教育によって世に問う場として、紀要の役割を改めて考えてみることも時宜に適っているのではないかと思います。

聖路加看護大学紀要の益々の充実と看護大学としての研究・教育の指標となられることを心から期待しております。